

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500011		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム ふたな		
所在地	高知県高岡郡中土佐町久礼6002番地2		
自己評価作成日	平成25年4月22日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの思いを知り、できる事に視点をおき支援している。決められた1日の流れにとらわれず、天候・入居者の状態に応じて、活動的な生活の支援を心がけている。生活リハビリを重視して、できる限り、日常の家事を行ってもらっている。散歩等戸外に出れる環境を作り、個別に自分の家を見にいたり、買い物に行ったりする支援も行っている。また、以前仕事をしていたことを思い出して、職員と畑で野菜作りを行ったりしている。収穫した野菜は、利用者に調理してもらい、食事に出しておいしくいただいている。地域との交流も行っており、田役や地域の清掃時には職員が出て、地域の方と掃除など行っている。さつま芋の収穫時には近くの保育園の園児と一緒に芋掘りを行い、楽しんでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JgvosyoCd=3992500011-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年5月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人が運営する養護老人ホームとデイサービスセンターの複合施設に併設した建物であり、地域住民と一緒に防犯訓練や祭りなどの諸行事を施設合同で実施することで、より多くの地域の人々や馴染みの利用者同士との交流を図ることができている。また、共通する内容の職員研修も施設合同で行い、相互の資質向上に努めている。併設の養護老人ホームが地域の避難施設に指定されていることや、地域住民の高齢化も進んでいることから、事業所は地域のなかで身近な存在として受け止められており、地域からの情報提供のほか、声掛け、差し入れなど日常的な交流が行われている。
管理者及び職員は利用者の気持ちや思いを大切にしながら、利用者が自分で行えることを続けてもらう姿勢を大切に、日々のケアに熱意をもって取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 東

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の一番見える所に理念を置き、ネームプレートにも入れいつでも見れるようにし、日々のケアの中で実践できるように取り組んでいる。	事業所独自の理念を実践につなげるために、新人研修では理念を徹底し、内容を全職員がネームプレートケースに入れたり玄関に掲示して、日々の業務の中で振り返る取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	田役への参加、地域の清掃活動、防災訓練時の地区民の参加、保育園児・小中学生と交流を行っている。また、併設の養護老人ホーム双名園で地域住民の方やボランティアが参加して夏祭りを開催している。散歩時に地域の方に野菜作りを教えてもらったりして交流を行っている。	併設の養護老人ホームと合同で行う防災訓練や夏祭りなどには、地域住民の参加があり交流している。事業所周辺は地域住民の散歩コースであり、日常的にあいさつや声掛けなどが行われている。芋掘りや敬老行事などを通じた保育園児や小・中学生との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃より、地域の方と交流を持ち会話の中で理解して頂けるように話をしたり、施設内の見学や施設で行なっている研修に参加して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービスの実施報告、取り組み状況の報告を行い、意見をもらい会議で出した意見を、職員同士共有している。津波時避難の対応についても意見をもらっている。外部評価の報告、改善状況なども話し合いサービスの向上に繋げている。	運営推進会議の議事録は玄関に開示されている。事業所の活動報告や外部評価結果報告のほか課題として防災の問題が協議されるなど、毎回意見交換が行われているが、議題の設定がやや固定化するなど、会議の活用不足が窺われる面もある。	会議は定期的開催されているが、家族の参加が得られないなどの課題もあり、「運営推進会議ガイドブック」等を参考にして、議題の設定、議題に適した関係者の参加、議事録の有効活用などの検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時には事業所の状況などを伝え、相談も行き、理解してもらっている。また、入居者の選定に当っては、包括からの情報を頂き意見を聞きながら行なっている。地区の防災訓練や行事のときは役場の協力を得て行っている	運営推進会議には町の担当者が毎回出席しており、事業所の状況を伝え意見をもらっている。町とは入居に関する相談や、各種研修会、防災訓練に関する情報を提供してもらうなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、チーム会で職員間での共有を行いながら、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関は開放しているが、建物裏側の居室の掃き出し口は安全の面から施錠している。利用者が一人で外出の際には併設施設や地域住民から連絡があり協力を得ている。	事業所内外の研修や併設施設との合同研修などで身体拘束防止を取り上げ、職員への徹底を図っている。また、日々のケアを職員同士で振りかえり、気付きを促している。外出傾向のある利用者を見守り、家族との連絡や併設施設、地域住民の協力も得ながら拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員から、申し送り時等に報告を受け、共有しながら拘束しないケアに取り組んでいる。職員の理解の徹底の為、職員間で注意しあうよう努めている。職員のストレスが溜まらないように、話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時には、本人・家族様には説明を行なっている。研修などに参加し、必要時に説明できるように努めている。全職員が理解できるように職員間で勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃から本人、家族様とのコミュニケーションを取り、希望があれば聞き、グループホームとしてできる事、出来ないこと、リスクについて説明をし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に第三者委員など相談機関の説明を行い、相談機関を見やすい位置に掲示しその都度説明を行なっている。また、家族の面会時にも意見を聞かせてもらっている。	家族会を年2回、行事日に開催している。参加者は少ないが、出された意見や要望は運営に反映している。運営推進会議の案内も家族へ送付しているが参加者が少ない。家族の面会時にはできるだけ家族の思いや意見を聞くようにし、利用者には日々のケアを通して意見や要望を汲み取るよう努めている。	家族に家族会や運営推進会議の意義や目的の説明を行い、テーマの設定、不参加者への会議録の送付など、家族ができるだけ多く参加してもらえるような工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の話聞き、ケアの改善点等話し合っている。また、記録に残すことで情報の共有を行っている。リーダー会やチーム会を行い、意見を聞く機会があり、気がついたことなどのへの発案等が聞かれており、意見を運営に反映させている。	ユニット会や申し送り時のほか、ケアの場面で職員の意見や提案を聞くように努めている。出された意見はリーダー会などで検討している。感染症が報告されたときは、職員の提案により、床の拭き掃除を感染症が終息した後も継続したり、勤務体制についての提案も検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系や条件は大差ないと思われる。職員一人ひとりにねぎらいの言葉がけもあり、職員旅行・忘年会等にてリフレッシュや法人・他事行所職員との交流の場もある。個別に資格取得にチャレンジする姿もみられ、管理者や他の職員も応援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加への機会の確保、支援体制が出来ている。また、法人内研修は定期的開催されている。また、資格取得への研修への参加も積極的に行なわれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会・地域のネットワークに関する会などに参加しサービスの質の向上にむけ取り組みを行なっている。毎月管理者が集まる機会を作り勉強会を行い、情報の共有、サービスの向上を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の、不安や困っている事に耳を傾けたり、以前の情報などを共有し、記録や申し送り時に話し合いを行っている。本人の希望に添えるような支援を家族と相談して行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話を聞き、不安や困っていることを聞き、説明を行い安心できるように努めている。また、入居者の状態も報告している。家族の希望に添えるような支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者さんの意見を聞き、利用できるサービスをインフォーマル面も含め説明し対応している。各時間帯の職員の話聞き、記録に残すことで継続したサービスが行えるような体制にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人さんの気持ちを考えながら、料理や畑仕事等を職員も教えてもらいながら共に行なっている。利用者同士のコミュニケーションも大切にしており、お互いに尊重できるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加の案内をしたり、面会時などは、ご本人さんと話を出来る環境を作りご本人様と一緒に居る時間を長くもってもらえるようにしている。家族が来られたときに一緒に写真を撮って、定期通信に乗せたり、部屋に飾ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた場所へドライブに行ったり、近所の方とのふれあいを行ったりしている。また、友人の方のグループホームへの訪問もお願いしている。個別に自分の家を見にいたり、近くの喫茶店でゆっくりしたりする機会も増やしている。	馴染みの喫茶店や量販店を利用するときや、散歩、夏祭り、避難訓練などで知人と出会い会話している。自宅や地元の神社へ行って近所の人と交流することもある。また、事業所から働きかけて、親しい人の訪問を依頼する支援もしている。馴染みの理美容院の利用には家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や今までも生活スタイルに応じて生活してもらい、必要に応じ職員が間に入り孤立しないようにケアしている。その方の得意な分野の話題ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の退居後も入院中のお見舞いへ行ったり、情報交換を行なっている。また、亡くなられた場合は、お通夜に出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の出来る方は、話を聞き出来るだけご本人の希望や意向に添えるように把握に努めている。また、意思疎通の困難な方は、表情などから読み取ると共に、家族からの情報集収をおこない本人本位に出来るように努めている。	利用者の個別シートに記録している以外の情報集収を心がけている。ソファに座って時間をかけて昔話などを聞くことで、思いや希望を把握できることもあり、得られた情報は個人記録に残し、介護計画に反映させるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、情報集収を行い家族・ケアマネからも情報を得て、理解に努めている。入居後にも本人からいろいろな情報を聞き、本人の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前にされていたこと等を把握し、現在の生活の中でできるだけ生かしていけるように努めている。その方の身体状況を見ながら、生活リハビリなどをすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを第一に計画を作成し面会時などに家族の意見を聞き反映できるようにしている。また、担当職員、職員の意見等も反映できるように努めている。	利用者毎に担当者を決め、日頃のケアや面会、電話などで利用者や家族の意向を受け止め、介護計画への反映を図るとともに、毎月ユニットリーダーと一緒にモニタリングを行っている。3カ月ごとに、計画作成担当者のモニタリングを経て、6カ月ごとに介護計画を見直ししながら、現状に合った計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者別に日々生活記録に記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに生かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予備室等があり、遠方の家族の方には必要に応じて使用してもらえることを説明している。また、外出・外泊などもご本人、家族様の希望に合せている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生、保育園児などとの交流をもち隣接施設での行事などにも参加している。散歩時には隣接している養護老人ホームの休憩所へ行き、地域の方と交流して、畑の野菜の育て方等話している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族・本人の希望に沿えるように病院等にも相談している。受診した病院と連絡を取り合い、次回の受診や生活面で気をつけることなど相談するようにしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診している。一般内科については、ほとんどの利用者が協力医による月2回の往診を受けている。専門医への受診は家族対応を基本とし、状況により職員が同行している。受診結果は、事業所の看護記録に記載し、送りや記録により職員間で共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を図り、共に相談しながら健康管理や病院受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、小まめに病院や相談員と連絡などして相談している。入院中も家族や相談員との連絡を定期的に行い、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成している。重度化した場合は、本人の思いや、家族様の思い希望を尊重し支援していく。また、グループホームでの限界も説明し理解ももらった上で対応し、支援していくようにしていく。協力病院との連携を行い、チームで支援に取り組んでいる。	「重度化対応指針」を作成し、入居時に家族等へ説明して確認をもらっている。事業所で最後まで看取った事例はないが、昨年、重度化した利用者があり、家族の強い希望から、看取りの体制をとってチームで入院間際まで支援を行った事例がある。看取りの研修も行っており、今後に備えて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は事務所の電話の前に貼っている。内部研修、外部研修に参加し緊急時に対応できるようにしてる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回定期的に訓練を行っている。(火災訓練年2回・地震津波訓練年2回)散歩時避難路を通り避難路の確認を行っている。また、地震津波訓練では地域合同の訓練を行い、近所の方にも避難時に協力してもらえるようお願いをしている。	併設の養護老人ホームと合同で年2回の火災訓練と、年2回の地震津波の避難訓練を実施している。併設施設は地域の避難場所に指定されているため、地域の自主防災組織とも一緒に訓練している。2名の職員を防災担当者とし、災害に備えている。備蓄については、一部を事業所に置き、主として併設施設で保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に心に留めケアすると共に、ご本人の今までの生活スタイルを理解しケアしている。衣服の汚染時も本人が嫌な思いをしないような対応を行い、他の利用者に気付かれないような声かけをしている。	併設施設と合同で計画的に研修を実施しており、特に新規職員には入職時に人権や尊厳の保持の研修を徹底している。全職員が利用者本人の気持ちを把握して対応するように常に話し合い、特に難聴の利用者への声掛けなどに注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思い等を聞きだせるようにコミュニケーションをとるようにしている。また、ご本人が出来るだけ意思決定できるように声かけやケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活のリズムを知り職員のペースではなく一人ひとりに合わせ生活してもらっている。好きな草花に水やりを職員と一緒にやっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に好みの服を聞き更衣できるように支援している。季節の衣服がないと家族に依頼して一緒に買い物へ行ってもらったりする。理美容は、行きつけの美容室へ行ったり、している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け・片付けは入居者と共に行なっている。食べれない食材は職員が情報を共有して提供しないようにする。季節の食材を使用し、昔の思いでを聞きながら、利用者に下ごしらえをしてもらったりしている。	併設施設の栄養士のメニューを参考にして、利用者の好みも取り入れながら、職員が献立を作っている。利用者は食材の下ごしらえや味付け、味見、盛り付け、食膳を拭いたり、片づけたりなど何らかの役割を持っている。職員は食事介助や見守りをしながら利用者と同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し管理を行っている。食事の形態も状態に合わせて出しており、摂取量の少ない時は、好みのもを出す等し出来るだけ摂取してもらえるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。自分で出来る人には声かけをし行なってもらい介助の必要な方には、介助を行っている。義歯の洗浄は、職員が行なっている。また、歯科の往診体制有。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知りなるべく失禁しないように、トイレ誘導を行っている。また、定時のトイレ誘導を行いトイレで排泄できるように支援している。介護度の高い方も歩行訓練を行い、排泄動作が少しでも自分でできるように支援している	排泄記録により、個別に排泄の自立支援をしている。尿意を訴えない利用者や介護度が高い利用者もトイレ誘導を行って習慣づけ、利用者の状態により布パンツを使用してもらうなどの工夫をしながら取り組んでいる。夜間も希望によって、トイレ誘導、ポータブルトイレの利用、おむつ使用など個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、運動散歩等を行っている。また、乳製品、食物繊維の多い食事を出す等予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に応じて入浴してもらっている。身体汚染時には入浴をしてさっぱりしてもらっている。冬には柚子湯を行ったりしている。	午前中から午後3時ごろまでに、本人の希望や体調を見ながら入浴支援をしている。毎日の入浴も可能である。ほぼ全員が2～3日に1回は入浴できるよう支援している。入浴拒否の強い利用者もいるが、散歩で汗をかいたあとの声掛けや一番風呂を薦めたり、職員が工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じお昼寝の実施をしている。また、日中の活動性を高め夜間ゆっくり休めるようにしている。不安の訴えなどが有る時は、ゆっくり話を聞き安心してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診で内服の変更があったときなど記録に残し情報の共有を図っている。利用者の内服の内容は事務室にあり職員がいつでも見れるところにある。気になる事があつたら見て確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの出来ることを見極め、台所仕事、掃除、洗濯、畑仕事、野菜の収穫など楽しみながら役割を持ち生活して頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は隣の養護老人ホーム双名園の休憩所に職員といっしょくつろいでいる。季節ごとの花見や買い物へも個別に行っている。自分の家を見に行ったり、昔ながらの近所の初詣に行ったりしている。	天気が良ければ、敷地内の庭を散歩したり屋外の休憩所で過ごしている。希望により、近くの店舗へおやつや日用品を買いに行ったり、自宅周辺をドライブし、四季の花見や漁港などにも出かけている。墓参りや外食など、家族の協力による外出支援も行われている。介護度が高くなった利用者はあまり出かけていない。	自己評価のアウトカム項目では、利用者が行きたいところへ出かけているのは利用者の3分の2となっており、行事に関する記録からも外出頻度が少ないことが窺われる。介護度が高い利用者も外気に触れる工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者数名が家族了承のもとお金を持っている。ホームで預かっている方もいらっしゃる。職員同伴で自分で好きなものを買ったり、喫茶店に行きコーヒーを飲んだりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話するという訴えがあったとき、状況を見て電話を取り次いでいる。手紙は個別にきており、本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の足音や、食器の音、戸を閉める音等入居者にとって不快な音となっていることがある。畑に野菜を植え季節に応じたものが楽しめるようにしている。なるべく季節の花を飾り、玄関にも花を植えて水遣りを利用者と一緒にやって成長を楽しんでいる。	リビングは広く明るく、食卓以外にゆったりくつろげるソファを4台配置し、廊下の端にも椅子などを置いて外を眺められる工夫がされている。玄関には季節の花を飾り、廊下の壁面には、鯉のぼり等の時節に合った折り紙など季節感のある飾り付けをしている。職員には、廊下を歩くとき、音がする靴を使用しないよう伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブル・畳のスペースなど思い思いの場所で過してもらっている。テーブルや椅子を移動して、別のホールや戸外等に移動させくつろいだりしている。外の木陰のベンチも活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、家具類や椅子を持込んでもらい、小物など馴染みの物も持参してもらえるようお願いしている。また、お孫さんの書いた絵やご本人と家族の一緒に写真等飾っている。	納戸があるため馴染みの筆筒などの持ち込みは少ないが、机、椅子、テレビなどの自宅の家具が置かれ、家族の写真や時計、造花、ぬいぐるみなど家族の協力を得た物品で居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人、家族の了解を得て居室の入口に名前をかいいたり、トイレの場所が解るようにし自立した生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名:西

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先等、目に触れる場所に理念を提示し、日々のケアの中で職員間で共有するとともに、利用者一人ひとりの思いを知り、生きがいのある生活をして頂けるよう、取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田役や地域の防災訓練に参加したり、保育園や小・中学生との交流にも参加している。挨拶することは元より、散歩時等に野菜作りを教えてもらう等交流を保っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学を受け入れたり、行事や散歩時の交流等を通して、認知症について理解して頂けるように話をしている。また施設内の研修に参加して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、サービスの実施や取り組み状況、職員についての報告をし、委員より意見等頂いている。それを職員間で共有し、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時には事業所の状況等を伝え、相談も行い、理解をしてもらっている。また利用者の選定に当たっては、包括からの情報を頂き意見を聞きながら行っている。地区の防災訓練や行事のときは役場の協力を得て行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、チーム会で職員間での共有を行いながら、拘束のないケアに取り組んでいる。日中、玄関は開放しているが、建物裏側の居室掃き出し口は安全の面から、掃除や換気時以外施錠している。利用者が一人で外出の際には、併設施設や地域住民からの連絡があり協力を得ている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加した職員から、申し送り時等に報告を受け、共有しながら拘束しないケアに取り組んでいる。職員の理解の徹底の為、職員間で注意しあうよう努めている。職員のストレスが溜まらないように、話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居時には、本人・家族様に説明を行っている。研修などに参加し、必要時に説明できるように努め、全職員が理解できるように職員間で勉強会を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、本人・家族の希望を聞き、契約内容や重要説明事項に沿って、グループホームでできる事や、できない事、リスク等説明し理解いただいている。本人・家族よりの不安に対し、理解しやすいように説明している。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に第三者委員など相談機関の説明を行い、相談機関を見やすい位置に掲示しその都度説明を行なっている。また、家族の面会時にも意見を聞かせてもらっている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃より職員の話しを聞き、ケアについて話し合い、記録に残して情報の共有を行なっている。またリーダー会やユニット会などに、意見を聞く機会を設けている。都度、意見や提案があれば運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている</p>	<p>代表者から、職員一人ひとりに労いの声かけがあり、職員旅行や忘年会等にて、他の事業所との交流もあり、リフレッシュできるように配慮している。資格取得へのチャレンジを声かけしてくれ、給与へ反映させてくれている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修へ参加への機会の確保、支援体制が出来ている。また、法人内研修は定期的開催している。研修への参加、資格取得へのチャレンジも積極的に行われている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流会・地域のネットワークに関する会などに参加しサービスの質の向上にむけ取り組みを行なっている。毎月管理者が集まる機会を作り勉強会を行い、情報の共有、サービスの向上を行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け、職員間で共有し、話し合い、安心できるように家族と共に関係作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族が困っていること、不安、要望に耳を傾け、説明や話をしたり、本人の状態も報告したりして関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族や本人の意見を聞き、利用できるサービスをインフォーマル面も含め、説明し対応している。職員の話も聞き、記録に残して継続したサービスが行えるような体制にしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の気持ちに配慮しながら、畑仕事を教えてもらったり、食事の仕度、洗濯、掃除など一緒に手伝って頂き生活をともに過ごしている。利用者同士のコミュニケーションも大切に、お互いが尊重できるような支援を行っている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事への参加の案内をしたり、面会時などは、家族でゆっくり過ごして頂ける環境をつくり、一緒に居る時間を長く持ってもらっている。また、最近の様子も報告し、意見を聞いたりしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前住んでいた場所へドライブに行ったり、近所の方とのふれあいを行ったりしている。また、友人の方のグループホームへの訪問もお願いしている。個別に自分の家を見にいたり、近くの喫茶店でゆっくりしたりする機会も増やしている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>会話を皆で楽しむように努めている。声かけしたり、生活作業等に参加して頂いていることにより、孤立しないように関わっている。利用者同士で口論になった時は、職員が間に入り対応している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用者の退居後も情報交換を行っている。また、亡くなられた場合は、お通夜に出席している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>話を聞き、出来るだけ本人の希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方は、日頃の行動や、表情を読み取ったり、家族より情報を聞き、本人本位に検討している</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の情報提供書をもとに、家族やケアマネから情報をもらい、また本人からも話を聞き、把握に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>以前されていた事を把握し、現在の生活の中で活かしていけるように努めている。また関わりを持つことにより、新たな発見もある。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意見を第一に計画を作成し、家族の意向を聞き、その上に担当職員や職員の意見を話し合い、反映できるように努めている</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者別に生活記録に記録し、申し送りやユニット会などに職員間で情報を共有しながら、見直しに活かせるように努めている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>予備室が有り、必要に応じて使用出来る事を説明している。外出、外泊等は、本人や家族の希望に合せている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小学生、保育園児等との交流をもち、隣接施設とも行事などで交流している。近くの店に買い物にもいって、知人にも会い、喜んで頂いている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は本人、家族の希望に添えるよう、病院等にも相談している。受診した病院と連絡を取り合い、生活面で気をつけることなど相談するようにしている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師と連携をとり、お互いに相談しながら、利用者の健康管理、医療活用の支援を行っている</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、小まめに病院や相談員と連絡などして、相談している。入院中も家族や相談員との連絡を定期的に行い、情報交換を行っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針を作成している。重度化した場合は、本人と家族の思いや希望を尊重し支援していく。また、グループホームでの限界も説明し理解してもらった上で対応し、支援していくようにしていく。協力病院との連携を行い、チームで支援に取り組んでいる。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内部研修、外部研修に参加し緊急時に対応できるようにしている。これからも継続していく必要がある。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年4回定期的に訓練を行っている。(火災訓練年2回・地震津波訓練年2回) 散歩時避難路を通り避難路の確認を行っている。また、地震津波訓練では地域合同訓練を行い、近所の方にも避難時に協力してもらえるようお願いをしている。</p>			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の先輩であることを常に心に留め、本人の今までの生活スタイルを理解しケアしている。衣服の汚染時も本人が嫌な思いをしないような声かけや対応をしている。</p>			

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思い等を聞き出せるように、コミュニケーションをとるようにしている。また、本人が出来るだけ自己決定できるように、声かけやケアを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人のペースや生活リズムを知り、職員のペースではなく、一人ひとりの希望に添って生活できるように、支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>更衣時などに好みを聞きながら、更衣できるように支援している。散髪等も声かけしたり希望を聞き、家族にお願いしている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人ひとりの好みを聞き、献立に活用している。旬の食材も取り入れ、季節感を味わってもらい話の種になっている。また、食事作りから、盛り付けや片付け等、一緒にしている。食べれない食材や好みでない食べ物は職員間で情報を共有し、別のものを提供している。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量を記録し、管理をしている。食事の形態も状態に合わせており、摂取量が少ない場合は好みの物をだし、出来るだけ摂取して頂けるように支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に実施している。自分で出来る方は声かけし、介助が必要な方は介助している。義歯の洗浄も介助が必要な場合は職員がしている。また、歯科の往診体制有。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを知りなるべく失禁しないように、トイレ誘導を行っている。また、定時のトイレ誘導を行いトイレで排泄できるように支援している。介護度の高い方も歩行訓練を行い、排泄動作が少しでも自分でできるように支援している</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>乳製品や繊維野あるものを取り入れたりしている。食事。水分量を把握し、運動や散歩、入浴などで排便促せるように努めている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>体調や希望に出来るだけ応じて入浴してもらっている。入浴拒否多い方には家族と相談し、とりあえずの入浴日を設定したり、都度声を工夫しながら促している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の状態や希望に応じ、昼寝等して休息してもらっている。夜間気持ちよく休んでもらえるように、日中活動を高めてもらうようにしている。また安心して眠れるように声をかけをしたり、話を傾聴したりしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が把握できるように内服の変更があったときなど記録を残し、情報の共有をしている。体調や症状の変化は、日頃からの状態を把握したうえ、確認に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>自分でできる事は役割として、して頂いている。誕生日に好きな物を出したり、希望を聞いて応えたりしている。一緒に楽しみごとや、気分転換等を考えたりして、実行できるように努めている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気のよい日は隣の養護老人ホーム双名園の休憩所に職員といっしょに散歩している。季節ごとの花見や買い物へも個別に行っている。自分の家を見に行ったり、昔ながらの近所の初詣に行ったりしている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人で金銭管理を行うことは、困難であるが、家族の了承のもと、自分で所持している方や、外出時や必要に応じ家族の協力を頂いてホームで預かっている方もいる。買い物と一緒にいき、好きなものを買われている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族に電話してという訴えがあったとき、状況をみて電話を取り次いでいる。手紙は個別にきており、本人に渡している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員の足音や戸を閉める音、食器の音等、不快を与えている時があるが、配慮に努めている。季節を感じてもらえるよう、花や物を飾ったり、食事にも取り入れている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ、テーブル、畳、廊下など、皆思い思いの場所で過ごせるように工夫している。日当たりのよい所に椅子等を構えて日向ぼっこして頂いている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や椅子、小物等馴染みの物を、本人、家族と相談して持参してもらっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人家族の了解を得て、居室の入口に名前を書いたり、トイレの場所が分かるようにし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない